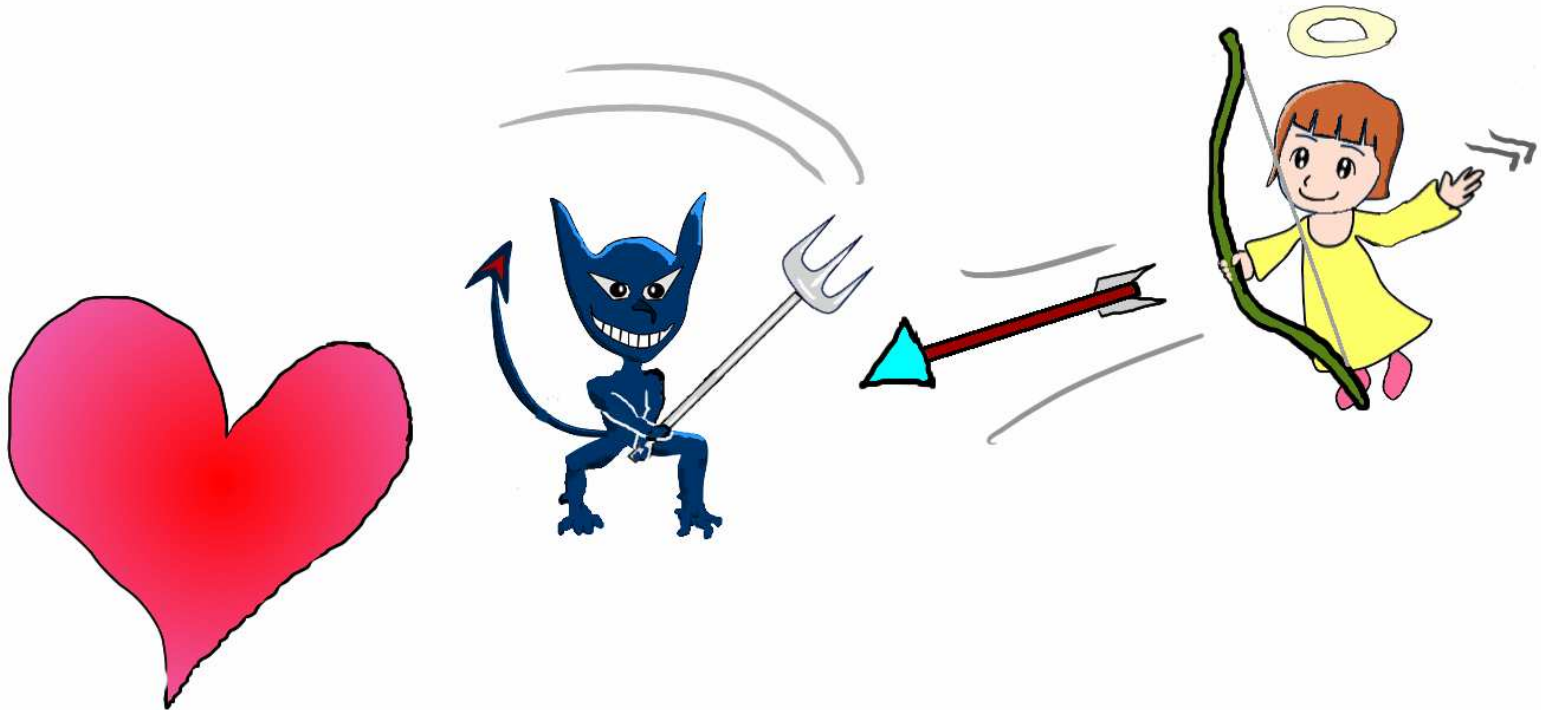


善悪と愛憎



東郷 潤

(注) この絵本は、勸善懲悪といった儒教道徳なり、聖書の「悪を憎み、善を愛せよ」(アモス5 : 15) といった記述、あるいは、一日一善といった教えについて書いたものではありません。

誰かと会うたびに、その人が善い人か悪い人か、考える人がいました。

この人は、本当は、
善い人なのかしら？

それとも悪い人？



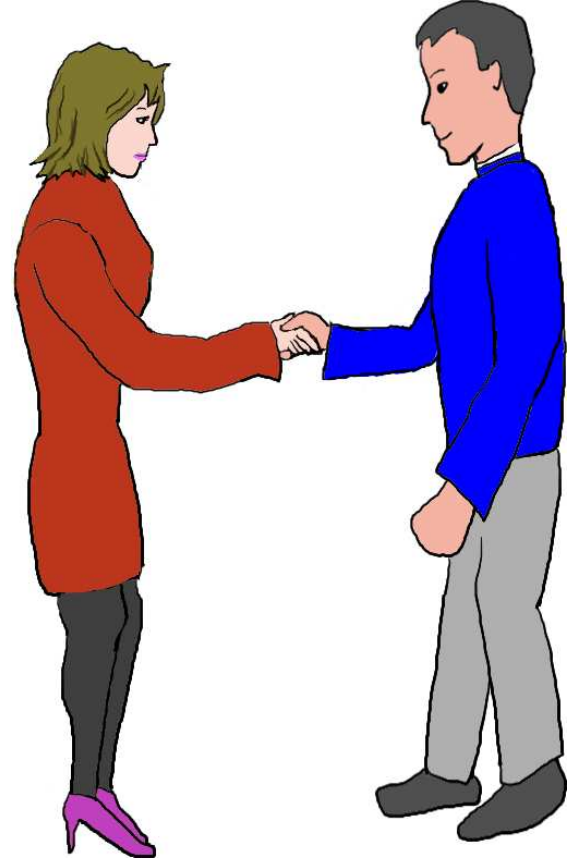
ところで、彼女は、ずっとこんな教育を受けてきました。



この命令に従って、彼女の疑問を書き直すようになります。

「この人を愛せ」と、私は本当に命令
されているのかしら？
この人は、本当は、善い人なのかしら？

それとも「この人を憎め」と、
命令されているのかしら？
それとも悪い人？



命令で
愛したり、憎んだり
するの？

あとがき 一絵本「善悪と愛憎」

善悪という考え方／言葉は、本当に様々な錯覚を生み出します。そして、これらの錯覚は人類の長い歴史の中で、多くの悲劇をもたらして来たと考えることが出来ます。(詳細は、下記WEBの絵本集、 弊著「善悪中毒」、「原爆への復讐」をご参照ください)。

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、出来るだけ多くの方に、読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です(商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます)。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることが出来ます。

www.j15.org

©Jun Togo 2010